

笑いを楽しむ

落語の舞台を歩く

10月3日(金)川の駅はちけんや(天満橋駅下車徒歩3分)で集合し、午前は大阪観光ボランティアガイドさんの案内で、落語の舞台を歩きました。前回9月19日、笑福亭學光師匠の講義「笑って笑って100歳まで生きる」で紹介された落語の舞台です。落語は「佐々木裁き」と「木津の勘助」でした。



川の駅はちけんやを出発し、次の順で、案内してもらいました。

八軒家→熊野街道→釣鐘屋敷跡→西町奉行所跡→五代友厚像→本町橋→堺筋本町駅

◎八軒家と熊野街道

江戸時代、天神橋と天満橋に挟まれた大川南岸が八軒家と呼ばれた。八軒家には、京都と大阪を結ぶ三十石船が発着する船着場があり、淀川における貨客輸送のターミナルであった。ここは、熊野三山への参詣道である熊野街道の起点でもあった。

◎釣鐘屋敷跡

寛永11年(1634)、徳川家光から市内の地子銀を永代免除された大阪の人々は、ここに鐘楼(明治3年撤去)を建てて時刻を報じ、永くその恩恵を記念した。今もコンピューター制御で1日3回、鐘が鳴っている。

◎西町奉行所跡

江戸時代、大坂の東西町奉行のうち、西方の奉行所。大坂の町奉行は二人で1カ月交代で執務にあたっていた。落語「佐々木裁き」の舞台となった西町奉行所の跡地。



◎五代友厚像

明治初期の実業家。現在の大阪商工会議所などの創立に尽力した。

◎本町橋

大阪で現存するいちばん古い公儀橋。東横堀川にかかる。

堺筋本町駅で解散となりました。

大阪の街でも歩いたことのないところでガイドさんの話を聞き、新たな発見がいくつもある街歩きになりました。

(2班広報担当)

